



人間牧場主・年輪塾々長  
若松 進一

## 元学校を地域の宝に

ある日、町中を歩いていると、八十歳近くのAさんという一人の男性に呼び止められました。「地元の下灘中学校が上灘中学校と統廃合され、地域の灯が消えたように寂しくなってしまった。あなたは教育長をしていたのに、この状態を見て何とも思わないのか!!」と少し言葉を荒げて食ってか



ありし日の下灘中学校

かられました。中学校が統合して廃校になったのは双海町が合併した五年後なので、私は既に教育長を辞めていて実質的に

責任はないのですが、行き掛かり上この問題が心に棘のように刺さっていることは事実なので、その人と色々立ち話をしました。が平行線でした。

ある日、松山に住む下灘中学校出身という七十五歳近くのBさんという男性からわが家に電話がかかって来ました。「先日、同級生と自分の母校である廃校となった下灘中学校へ出かけました。運動場の入口には鍵がかかっていましたが、懐かしさの余り我を省みず同行した五人の仲間と、いけないこと知りながら門扉をよじ登り運動場へ入りました。閉校時に建てた閉校記念碑の前に行き、みんなで懐かしい校歌を大声で合唱しました。運動場には草がいつばい生えていました。地元にいる人間が草ぐらいいは引いて管理をしてもバチは当たらないと思ひ、まちづくりに取り組んでいるあんたのことを思い出し、電話をしました。」というのです。私は即座に「あなたたちはそのまま草も引かず帰ったのですか?」と尋ねると、言葉を濁しながら「それはふるさとに生きるお前らの務めだろ。うが・と声を荒げて返されましたが、平行線でした。

ある日、Cさんという市会議員さんから「今度廃校になった下灘中学校のあり方

について議会で一般質問をしようと思うのですが、意見を聞かせて下さい。」と連絡が入りました。議員さんの話だと、これまで何度もこの問題について質問したそうですが、「学校校舎の耐震や予算などを盾に善処しますとは答弁するものの未だ善処妙案もなく、選挙の度に地元からは役に立たない議員のレッテルを貼られ困っています。統合の話をもとめる時、『学校統合後の跡地は必ず地域の活性化のために有効利用しますから』と言っていた約束は、一体どうなっているのか、いつも平行線です。」と話されました。

ある日、市役所の職員Dさんから、「私的な話ですが」と前置きして、「若松さん、廃校になった中学校跡地の利用について何か妙案はありませんか? 地元からも他所に住む卒業生からも、また議会の度に議員さんからも鋭い質問が相次ぎ、妙案はないかと学校跡地を利用し成功している全国の先進事例を探して視察しているのですが、帯に短しタスキに長しで正直困っています。地域づくりに造詣の深いあなたなら良いご意見をお持ちでしょう。」と、齒の浮くような誉め言葉で持ち上げられましたが、ここでも「地元の人が熱心でないのだから先へ進めません。」と、やらないことをやれ

ないと勘違いした言い訳を聞き、平行線でした。

学校の跡地を利用して地域の活性化を図るべきだと論ずるAさん、Bさん、Cさん、Dさんの、それぞれの立場は微妙に違いますが、母校を愛し町を愛するがゆえに何とかしたいと思う気持は、みんな一緒だと少し嬉しくなりました。しかし根本的にポタンを掛け違えているのは、「この問題が解決できないのは誰の責任？」と、Aさんは元教育長である私の責任、BさんとDさんは地元の人々の責任、Cさんは行政の責任を論じて、自分を蚊帳の外に置いているようにも思えるのです。はてさてこれで廃校となった学校施設や跡地の有効利用はできるのでしょうか。

今、日本のあちこちでは、人口減少と少子化を理由に、学校が統廃合されどんどん姿を消しています。先んじて学校がなくなった地域では、地元住民が危惧していた通り、学校の灯が消えると同時に地域が疲弊し、学校周辺はまるでゴーストタウンのようになっている所も見られ、目を覆うばかりです。役所も議会も地域も妙案はないものかと、インターネットなどで上手く行っているような事例を調べて、先進地視察を試みるのですが、そんなことくらいで

解決するほど浅い問題ではないようです。

学校の跡地利用には、行政財産だったり、補助金の返還等難しい面もあります。が、企業に施設をそっくり身売りや貸与させる企業誘致的な方法もあります。高齢化社会を反映した福祉施設への転換や弱電・縫製といった、地元住民を雇用する働き場の確保で活路を見出している所もあります。最も多いのは地域の人たちのコミュニティ活動の拠点として利用している地域であり、買い物難民のためのマーケットとして活路を見出している地域や施設を改造して宿泊研修のできる交流施設としてそれなりの効果を上げている地域もあります。

学校には多くの教室と体育館、プール、それに運動場という4つの条件が揃っています。しかも周辺に人家が密集していない清閑な環境もあり、運動場は100台も停まれる駐車場として使えるし、体育館は100人を超える集客ができたり、間仕切りができることを思えば、お荷物だった学校跡地も考えようによっては一転して、宝物になる可能性を秘めているのです。

かつて私は「地域づくり失敗の10カ条」というのを考えたことがあります。①どんな地域にしたいか夢がない。②はずみ車でな

く振り子時計の原理に終始している。③やらないことをやれないと言いつけばかりしている。④補助金や人の懐を当てにして身銭を切らない。⑤失敗や反対があったら直ぐに止めてしまふ。⑥成功した事例を真似したが。⑦社会の流れや時代の流れを読めない。⑧経済を無視している(収支が合わない)。⑨地域を巻き込んでいない。⑩自立できていない(人も地域も)。以上10カ条ですが、学校跡地利用ができない理由も、こちら辺にあるようです。私案ですが、音楽好きな若者のために、朝から晩まで自由に練習が出来る音楽活動の拠点として、まちづくり会社を創設し地域の複合的問題の解決のため新しい試みをすることも面白いと思います。

「責任は 誰にあるのか 他を批判  
いつまで経っても 振り子の原理」  
「学校が なくなりや地域 寂れると  
危惧した通り あちらこちらで」  
「これだけの 揃った条件 ビジネスに  
生かせば学校 まちの宝に」  
「先進地 事例見習う 踏襲は  
やがて失敗 運命辿る」  
(若松進一 の笑売啖呵)